当院における大腸がん検診の現状と課題

◎林 優花[1)]、伊藤 康生[1)]、津荷 秀美[1)]、左右田 昌彦[1)]
JA 愛知厚生連 江南厚生病院[1)]

【目的】

近年大腸がんの罹患数、死亡数は男女ともに上位を占め、増加傾向である。現在、大腸がん検診には免疫学的便潜血検査(fecal immunochemical test：FIT)がスクリーニング検査として用いられており、陽性になった場合は大腸内視鏡検査や注腸検査などの精検実施が推奨されている。今回は当院の大腸がん検診と精検実施の現状を調査した。

【対象・方法】

2022 年 9 月 1 日から 2023 年 8 月 31 日までに、当院の健診センターを受診した延べ 17002 人(男性 9277 人、女性 7725 人、平均年齢 54.3 歳(±12.5 歳））のうち、FIT 陽性となった 1488 人(男性 865 人、女性 623 人、平均年齢 55.9 歳(±13.4 歳））を対象に調査を行った。また、精検受診率は 2022 年 10 月 1 日から 2023 年 9 月 30 日までに当院の消化器内科を受診した患者を対象とした。

【結果】

FIT 陽性率は 8.8%(1488 人)であった。FIT 陽性者の当院消化器内科の受診率は 23.1%(344 人)、このうち精検実施率は 61.6%(212 人)であった。精検結果は悪性所見 4.7%(10 人)、良性所見 95.3%（202 人）。悪性所見の内訳は腺癌 60.0%(6 人)、腺腫内癌 30.0%(3 人)、上皮内癌 10.0%(1 人)であり、良性所見者の内訳は、腺腫 75.2%(152 人)、大腸ポリープ 10.9%(22 人)、過形成性結節 3.5%(7 人)、SSL(鋸歯状病変)2.5%(5 人)、大腸炎 2.0%(4 人)、複数所見 5.9%(12 人)であった。

【考察】

今回の調査では、2023 年 1 月における厚生労働省の調査による本邦の精検実施率 71.4%より約 10%低い結果となった。他院での精検受診を追跡はしておらず、追跡調査の精度を上げることが課題である。また、認められた良性所見は悪性化も十分に考えられるため、当院 FIT 陽性者が当院の消化器内科を受診しているかを毎年確認していく必要がある。

連絡先：0587-51-3333　内線：2357